



特別講座Ⅱ

わかりやすく学ぶエネルギースクール

◎本紙面は2021年10月19日(火)に開催された、オンラインセミナーの講演・対談から抜粋・再構成しています。

福井県のエネルギー・原子力情勢について学ぶ②

福井県環境・エネルギー懇話会では、エネルギーや原子力をめぐる現状と課題を整理し、体系的に学ぶ3回シリーズのセミナーを開催しています。今回は前回に引き続き、今年度新たに設けた特別講座として「福井県のエネルギー・原子力情勢」について学びました。

オンラインセミナー

今般の新型コロナウイルス感染症拡大状況を踏まえ、オンラインでの開催といたしました。



PR

講演1

日本のエネルギー政策の課題と展望 ーネットゼロカーボンを真面目に考えるー



たけうち すみこ
竹内 純子氏
NPO法人
国際環境経済研究所
理事・主席研究員

脱炭素化で、原子力に 注目が集まる。

私からは、エネルギーと原子力を巡る世界的な潮流を含め、原子力の今後についてお話ししたいと思います。電力自由化した西欧諸国ではしばらく原子力発電の新設が停滞していましたが、原子力復権の動きがあります。気候変動問題への危機感が高まっているからです。

脱炭素と脱原発の二兎を追うことはできないと思います。日本でも、原子力発電に注目が集まる可能性があります。再エネや原子力の「脱炭素電源」が求められています。太陽光発電の導入量は日本は世界第3位、国土面積当たりではトップではありますが、これから2030年に向けて太陽光発電をさらに増やしていく必要があります。ただ、風力も太陽光発電も自然変動電源で、自然条件や国土の制約があり、日本は再エネ導

なぜ脱炭素で 原子力に 注目が集まるのか

電化の進展
↓
電力需要の増大

技術の確立度の高さ

原子力の活用 に向けた方策。

原子力の今後については、まず、既存原子力発電所の活用が挙げられます。国際エネルギー機関(IEA)の報告では、既存の原発の寿命を延ばして長期運転することが最も効率のいい気候変動対策だとしており、米国などでは80年運転の許可も出されています。もう一つ、新設やリブレイス(建て替え)では、小型モジュール炉(SMR)などの「次世代原子力」が世界的に注目

講演2

福井の原子力の今と未来② ーこれからの原子力の潮流について考えるー

特別講座 ゲスト講師



くるば かつみ
来馬 克美氏
福井工業大学
客員教授(特任)

世界は脱原発に 向かっているとは言えない。

前回の講座では、原子力のパイオニアとしての福井の、今を中心に進めましたが、今回は、原子力の将来や原子力に対する世論等についてお話したいと思っています。

9月に発表された、国際原子力機関(IAEA)の年次報告では、信頼性の高いクリーンエネルギーの生産加速という観点から、多くの国が原子力の重要性を認識している」としています。世界の原子力発電設備容量について2020年から2050年の値を比較すると、技術的に実現可能な政策シナリオである「高ケース」の場合で倍増、市場政策や利用技術の傾向が現状のまま続く「低ケース」の場合でも同レベルと予測しています。

各国別では、中国では原子力発電所数が2010年比で4.5倍に伸びており、ロシアでは小型モジュール炉(SMR)の一つといわれる「世界初の海上浮体式原

世界は「脱原発」に 向かっているとは言えない

多くの国は、福島事故以降も地球環境保全や資源確保等の観点から、原子力利用に係る新たな安全技術の開発と原子力政策の強化、運転中プラントの効率的な運用等に取り組んでいる。したがって、「脱原発」に向かっているとは言えない。

若い世代は原子力が 嫌いなわけではない。

米国原子力学会が6月に発表したデータによると、アメリカでは76%の人が

「脱原発」の商業運転が始まっています。英国や東欧諸国も、新たに原発を建設しようと考えています。40年超運転も進んでいます。2019年3月時点で世界の運転中プラントのうち、4分の1弱が既に40年を超えて運転しています。

こうしてみると、世界は脱原発に向かっているという前提は間違っていると思います。その上で、地球環境問題との関係で原子力を今後どう理解し、取り組んでいくのが課題です。世界が将来に向けて取り組んでいるのは、運転中プラントの出力増加や運転期間の延長、小型炉(SMR)や革新炉の導入です。

2050年のカーボンニュートラルに向けて持つべき視点

エネルギー政策は3E(Energy Security / Efficiency / Environment)のバランスを定めること

気候変動問題は、エネルギー・経済問題。成長戦略につながるようにしたたかに考える必要がある。

「再エネー神教」に陥らずに考える必要
但し、原子力技術への「正しい恐れ」を持ち、安全に使うために何が必要かを考えること。

されており、日本でもグリーンイノベーションの重要分野の一つとして注力するとしています。
日本では、こうした原子力の「技術開発」に加え、社会や立地地域がどう受け入れていくか、安全規制をしっかりとできるかという「体制づくり」の両面を進めていくことが必要です。2050年のカーボンニュートラルに向けて、「再エネー神教」に陥らず、原子力技術への「正しい恐れ」を持ち、安全に使うために何が必要かを考えることが重要でしょう。

若い世代は原子力が嫌いなわけではない

米国 世論調査で、76%が原子力発電支持で、1983年以降の最高値を更新! *海外電力調査会調べ(2021年6月米国原子力学会発表)
NHK 事故後10年で世論調査。全廃(17%)増加(3%)維持(29%)減少(50%) *2020年11月実施。NHK政治マガジンより

日本原子力文化財団
○徐々に廃止が約5割、即時廃止は減少。
○再稼働に否定的な考えは減少。
○5年間で、原子力に対する否定的な意見は減少。
*2020年10月実施。2006年から定期的・継続的に調査。

「つるが原子力セミナー」(2021年7月開催)や「福井工業大学学生座談会」(2021年4月開催他)での意見聴取結果から、若い世代ほど地球環境問題等に関心が高く、原子力についても中立的立場。原子力が嫌いなわけではない。

原子力発電を支持しており、1983年以降で最高の数字だったそうです。また、NHKや原子力文化財団の調査結果をみても、原子力に対する否定的な意見が減少してきていることがわかります。
今年7月、全国の学生がオンラインで参加した「つるが原子力セミナー」では、学生たちから「来年こそ、現地でしっかりとプラントを見学したり、学生同士で交流したりして、原子力についてもっと学びたい」という希望が多く挙がりました。
また、これまでに実施した福井工業大学の座談会等での学生の意見聴取結果をみると、若い世代ほど、地球環境問題や脱炭素社会に関心が高く、単純に原子力が嫌いというよりは、将来のために原子力を中立的に考える立場を取っていると思います。

※講演1および講演2の内容は、国際エネルギー機関(IEA)世界エネルギー統計、国際原子力機関(IAEA)年次予測報告書等に基づいて、2021年10月19日時点の内容で構成しています。

第2回エネルギーセミナー 予告 <テーマ> エネルギー基本計画について学ぶ

ゲスト講師 日時 調整中 詳細が決定次第HPよりお申し込みください。 定員 100人

お申し込みはこちら



主催 福井県環境・エネルギー懇話会
TEL.0776-33-7050 〒918-8004 福井市西木田2-8-1 福井商工会議所ビル6F

共催 福井県経済団体連合会
福井商工会議所

協賛 関西電力(株)